

2008 年度

女子も本格強化へ

女子でもトップアスリートを

大塚製薬 陸上部

本格強化へ選手勧誘

2年後の実業団駅伝出場目指し



大塚製薬陸上部に新しく入った野口と2年目の三浦＝鳴門市内の同社

大塚製薬は1990年に陸上部を創設。世界に羽ばたくトップアスリートの育成を目指し、これまで男子中・長距離に軸足を置いた。2000年のシドニー五輪マラソンに大塚製薬の選手が活躍し、05年の世界選手権マラソンに細川道隆が出場するなど、成果を挙げた。野口監督も指導者として成長。現在、日本陸連マラソン部長として国内の男女マラソンの現場トップに就き、河野監督を支える本路修平コーチや、順天堂大に「国内留」西陸上東をリードする立場

「地元を含めて 陸上界に貢献」

大塚製薬はこれまで6人の女子選手が在籍し、現在は三浦裕(三)＝富岡東高1立命大出陣のみ。しかし今夏から積極的に選手勧誘を始め、元日立の野口美穂(三)＝埼玉東出身、白陽大出陣を7日付で獲得した。自己ベストは千五百四十四秒23秒22、五千以15分50秒11。ともに徳島県女子記録を上回る。

同社はさらに県外の優秀な選手と交渉中。県内の有望な高校生にも声をかけているという。

陸上部長を務める久米正秀総務部長は「やるからには男子同様日本、世界を舞台に活躍するランナーづくりを目指し、地元を含む陸上界に貢献したい」と話し、河野監督は「道のりは厳しいが、男子で培った育成強化のノウハウを生かし、女子でもトップアスリートを目指したい。県内の若手女子選手が目指してくるような部らしい」と言っている。

陸上部を持つ大塚製薬工場(鳴門市)が、これまで取り組んできた男子の活動に加え、女子でも本格強化に乗り出す。既に選手勧誘を始めており、早ければ2年後の全日本実業団女子駅伝予選会(淡路島女子駅伝)出場を目指す。全国都道府県対抗女子(全国女子)駅伝で下位に低迷する本県の強力な「助っ人集団」になりそう。県内の女子中・長距離のレヘルアップや優秀な若手ランナーの受け皿役としても期待される。